

1 学期始業式 学校長の話（2026年4月9日）

- おはようございます。改めまして、1年生の皆さん、入学おめでとう。2・3年生の皆さん、進級おめでとうございます。入学式でもお話ししましたが、もう一度、始業式のきょう、改めて伝えます。
- 一つめ。「明日も来なくなる学校を作りましょう」。これは去年の4月、僕が着任したときから、ずっと言い続けてきたことです。誰にとっても、北稜中が「明日も行きたいな」と思える場所であるように。生徒の皆さんも、先生たちも、学校に関わるすべての人が、そう思える学校にしたい。
二つめ。「自分を大切にすること。そして、隣にいる人を大切にすること」。去年の2学期からずっとお願いしてきたことです。相手の気持ちを想像する。嫌がることを言わない、しない。しんどいときは「助けて」と言っていい。これは新しい学年になっても変わりません。新しいクラスで、まだお互いのことをよく知らない今だからこそ、大事にしてほしいと思っています。
- さて、2・3年生に聞きます。修了式で僕が最後に紹介した言葉、覚えていますか。沖縄のことばで「よんなあよんなあ」。意味は「ゆっくり、ゆっくり」。焦らなくていい、自分のペースで歩いていこう、という話をしました。
あれは本心です。今もそう思っています。ただ、正直に言うと、世の中というのは「よんなあよんなあ」とばかり言ってられない、世知辛いところもあります。技術はものすごいスピードで進んでいる。社会も変わり続けている。のんびりしていたら置いていかれるんじゃないか、そういう不安を感じることもあるかもしれません。
きょうはそのことについて、少し話をしたいと思います。
- 皆さん、「**Society 5.0**（ソサエティー ゴーテンゼロ）」って聞いたことはありますか？これは日本政府が「これからの社会はこうなっていくよ」と示した未来社会の姿です。「5.0」というからには、1.0から順番があります。
Society 1.0 は、狩猟社会。何万年も前から続いていた、人類がいちばん長く過ごしてきた時代です。動物を追いかけ、木の実を拾って食べ物を手に入れていた。
Society 2.0 は、農耕社会。今からおよそ1万年前に始まりました。田畑を耕して、米や麦を育てるようになった。日本でいえば、縄文時代の終わりから弥生時代にかけてのあたりです。
Society 3.0 は、工業社会。今からおよそ250年前、18世紀後半のイギリスで産業革命が起こりました。蒸気機関が発明されて、工場でモノを大量に作れるようになった時代です。
Society 4.0 は、情報社会。20世紀の後半、コンピューターやインターネットが普及して、世界中の情報が手に入るようになった。皆さんが生まれたころには、もうこの社会でした。
- そして **Society 5.0**。2016年に日本政府が打ち出した、これからの社会の姿です。AI、ロボットといった技術を使って、社会の課題を解決しながら、一人ひとりが暮らしやすい社会をめざす。「超スマート社会」とも呼ばれています。
まさに今、皆さんはこの Society 5.0 の渦中を歩いています。AIに質問すれば答えが返ってくる。翻訳もしてくれる。作文も書いてくれる。便利な時代です。

- じゃあ、この Society 5.0 の「中心」には何があると思いますか？ AI？ ロボット？ 実は違うんです。内閣府の定義にはっきりこう書いてあります。Society 5.0 は「人間中心の社会」である、と。ちょっと意外じゃないですか。AI の時代なのに、中心は AI じゃない。テクノロジーの時代なのに、中心はテクノロジーじゃない。中心にいるのは、人間。つまり、皆さん自身です。

- 考えてみれば当たり前かもしれませんが。AI はたしかに賢い。でも、朝、教室で友だちが元気なさそうにしていたとき、「どうしたん？」と声をかけるのは、AI にはできません。部活でうまくいなくて落ち込んでいる仲間の横に、黙って座ってくれるのも、AI ではありません。
どれだけ技術が進んでも、人の気持ちに気づいて、手を差し伸べるのは、人間にしかできないことです。そこだけは、1.0 の時代から何万年経っても変わっていない。
だから、「よんなあよんなあ」と「Society 5.0」は、矛盾しないと僕は思っています。社会はどんどん速く動いていく。でも、その速い社会の真ん中にいるのは、人間です。隣の人に「おはよう」と言える人間です。そこは変わらない。

- 新しいクラスで、まだ緊張している人もいるでしょう。まず隣の席の人に「おはよう」と声をかけてみてください。その一言が、相手にとっての「ここにいていいんだ」という安心につながります。

- 自分を大切にすること。隣にいる人を大切にすること。Society が何点何になろうが、これだけは絶対に変わりません。今年も、この約束を真ん中に置いて、よんなあよんなあ、でも確実に、明日も来なくなる北稜中を、みんなで作っていきましょう。以上です。